

〈いのち〉と〈い〉

語りを問い直す

いのち（命・生命・イノチ・寿）——の次に続ける言葉は何ですか。「大切」？それとも「矛盾」？

私たちは「いのちという矛盾」を生きているように思います。大いなる、しかし個性も名前もないいのちに対して、いまここを生きる「私」の誕生。大切にされたいのちなのか、私なのか。私という個としてのいのちと、大いなるいのちを生きつつ、ここには調和されない緊張関係があるのではないのでしょうか。そして、私を生きる以上、避けることのできない罪悪、いのちがいのちを害さずにはいられない、という問題。この罪悪の私は大切なのだろうか。

このいのちという語りは時代によって変化し、宗教、文学、科学などによっても様々に語られてきました。いのちを語り始めるとき、まずその複雑さに一度驚くべきなのかもしれません。特集では〈いのち〉という語りについて改めて考えていきます。

（親鸞仏教センター 中村玲太）

交差点

Essais

連載

特集

森川輝一 ● 2
誕生を祝うために

池澤春菜 ● 6
ヒトのイノチのその先に

岩田文昭 ● 8
いのちの否定と肯定

大谷由香 ● 12
日本仏教における「慈悲殺生」の許容

本多弘之 ● 16
宗教心と根本言 IX

渡辺優 ● 18
「俗」へのまなざし

天畠大輔 ● 22
「あ、か、さ、た、な」で能力を考える

宮本ゆき ● 24
核兵器と「悪」

山田由香里 ● 29
祈りの造形を削り出す―鉄川与助の手仕事が生んだ聖なる空間―

長谷川琢哉 ● 30
ありがたい〈いのち〉と無慈悲な〈生命〉

越部良一 ● 31
帰命の命